

令和7年（行ウ）第147号 難民認定不認定処分取消等請求事件

原告

被告国

証拠説明書 B1

2025年4月16日

東京地方裁判所 民事第3部B2係 御中

原告訴訟代理人

弁護士 笹本 潤

号証	表題	原本	作成年月日	作成者	備考
立証趣旨					
甲 B1	Time 誌記事	写し	2023 年 6 月 2 日	Time 社	旧 甲 4
性的指向や性自認に基づく差別を犯罪とする法案がフィリピン議会で 20 年以上にわたって審議されてきたが、毎年否決されてきたこと。差別を違法とする条例がフィリピンの都市で制定されているが、それらは全く役に立たず、全国的な法律の制定が待たれていること。 一方、フィリピンの L G B T 活動家であるイノセト氏は、ネット上の偽情報などにより攻撃を受け、自分と家族の安全を守るためにフランスに亡命申請をしたこと。					
甲 B2	Oxfam blog	写し	2022 年 6 月 21 日	チェン・パグラヤン	旧 甲 5

フィリピンでは、トランスジェンダーとノンバイナリーの人が、2010 年～2020 年に少なくとも 50 人が殺害されいること、トランスジェンダーとバイセクシュアル女性の約半数が性暴力の被害を受けていること。 2021 年には 3 人のトランスジェンダーが殺され、3 人が誘拐された。SOGIE 法案はフィリピンでは法制化されておらず、自治体では条例があるが、人口の 25%しかカバーしておらず、十分とは言えない。					
甲 B3	LinkedIn の ブログ記事	写し	2023 年 2 月 21 日	ジャンヴィ・アミド	旧 甲 6
フィリピンにおいてはトランスジェンダーの人が 50 万人いると推定されており、差別され、精神的な健康状態の悪化をもたらしており、また医療を受ける際にも、適切な施設の不足、無理解な医療従事者からの偏見やスティグマによる差別されていることなどの実態がある。 フィリピン大学の研究によれば、トランスジェンダーの人はうつ病や不安症の率が高いこと。					
甲 B4	フィリピン 等の NGO 声 明	写し	2023 年 10 月 9 日	国連高等弁務官事務 所	旧 甲 7
フィリピンでは、過去 10 年間さまざまな種類のジェンダーに基づく暴力が増加している。トランスの女性団体が LGBTQ に基づく差別を禁止する法律の制定を求めており、LGBTQ に対する差別禁止法がなかなか成立しないこと。					
甲 B5	オーストラ リア政府外 務貿易省の 国別報告書 （出入国在 留管理庁の 仮訳）	写し	2021 年 8 月 23 日	オーストラリア政府 外務貿易省	旧 甲 8

フィリピンは、LGBTQ に比較的寛容と見られているにもかかわらず、実際には LGBTQ に基づく差別は存在している。LGBTQ の人たちのためのプライド・パレードに対しては抗議もある。同性婚についてはアンケート調査では 60 パーセントの人が反対してる。ボクシングの元世界チャンピオンも LGBTQ を公然と批判している。LGBTQ の人々を差別から保護する国内法は一切存在しない。議論は 20 年以上行われているにもかかわらず。地方自治体の条例はあるが、有効性にはバラツキがある。 LGBTQ の人々が家族の中では、親戚と縁を切る例もある。 トランスジェンダーの人は、他の LGBTQ の人よりもより嫌がらせを経験している。ヘイトクライムが起きている。米海兵隊員が 2015 年にトランスジェンダー女性を殺害し有罪判決を受けている。NGO の報告によれば、トランスジェンダーの学生は自身の好む制服を着用するのを妨げられている。そのようにトランスジェンダーの人は、フィリピン全域にわたり暴力と差別を受けるリスクに直面している。 LGBTQ のパレードなどがあると、フィリピンでは一見 LGBTQ に対して寛容な社会であると見られがちであるが、実際には様々な形で LGBTQ の差別が発生している。					
甲 B6	ピンクニュース記事	写し	2022 年 9 月 29 日	アメリア・ハンスフォード	旧 甲 9
トランス女性の教師が殺害された事件についての報道。2022 年 9 月にトランスジェンダーの高校教師が白昼にガンマンに殺害された。2021 年にもトランスジェンダー女性が殺害された際に、容疑者が裁判で抗弁として「トランス・パニック」の抗弁を使って殺人を正当化しようとした。フィリピンではこのような抗弁が常用され、LGBTQ の保護がないがしろにされている。 そのようにフィリピンにおいては、反 LGBTQ の差別行動が許され、同性婚が認められず、LGBTQ 住民に対する保護がされていない。					
甲 B7	ピンクニュース記事	写し	2021 年 8 月 6 日	ジェイク・ホール	旧 甲 10
トランス女性が殺害され、容疑者が「トランス・パニック」という抗弁によって殺害を正当化した。フィリピンの人権委員会はこの殺人事件の本格的な調査をすると発表した。フィリピンには LGBTQ を差別から守る法律はなく、その結果、トランスジェンダーの人たちは「毎日怖い」と感じている。					